

Theory of Change の起源：PCM/PDM

開発コンサルタントが長年活用してきたPCM/PDMの論理構造が、
私たちのTheory of Changeの基盤となっている

PCM/PDM（Project Design Matrix）

PDM要素	内容
上位目標	プロジェクトが貢献する長期的目標
プロジェクト目標	プロジェクト終了時に達成する目標
成果（Output）	目標達成のために産出する具体的成果
活動（Activity）	成果を生み出すための具体的活動
投入（Input）	活動に必要な資源（人・資金・機材）

Theory of Change（変化の理論）

発展
→



PDMとToC の対応関係

上位目標 → 長期的インパクト 成果（Output） → アウトプット プロジェクト目標 → 中間アウトカム 活動（Activity） → 介入（Intervention）

ToCがPDMに加えた進化	①前提条件（Assumptions）の明示化 ②ステークホルダーの参加型策定 ③非線形な因果経路の許容 ④エビデンスに基づく検証サイクル
---------------	--